

令和 7 年度埼玉県障害者施策推進協議会
伊豆潮風館・リフト付きバスおおぞら号に関するワーキングチーム 会議録

令和 7 年 8 月 7 日（木）14：00～16：15
埼玉県庁第 1 庁舎 1 階福祉部会議室

参加者：遅塚委員、万谷委員、植村委員、菊池委員、下重委員、田島委員
書面参加：松本委員、川津委員、石橋委員、林委員、亀岡委員、関根委員、神月委員
傍聴者：なし

【事務局】

本日は、伊豆潮風館、リフト付き大型バスおおぞら号、こちらの廃止というご報告をさせていただいたことを踏まえ、特別なワーキングチームを開催をさせていただければと思っております。

まずは資料確認です。

お手元にございますでしょうか。

《資料確認》

【遅塚委員】

EBPM 調書と記載されている資料を用いた会議名をもう 1 回教えてください。

また開催日はいつですか。

【事務局】

施策評価有識者会議です。

開催日は令和 6 年 7 月 25 日です。

ちなみに、伊豆潮風館が諮られた公の施設のあり方有識者会議は令和 6 年 11 月 29 日です。

【遅塚委員】

事務局から経緯を改めてご説明願います。

【事務局】

まず伊豆潮風館が諮られた施策評価有識者会議について、予算の側面から、継続していくべきか否かという観点で事業選出され、会議に諮られるものになっております。

会議の際は、報告書にある通り、福祉部としては事業継続を主張しております。

具体的には、民間施設の物理的バリアフリーは進んではきてはいるものの、障害特性等への理解がいただけていないといった点について、例えば落ち着いてゆっくり過ごされたい精神障害の方がいるといった話や、楽しくなってしまうと声が出てしま

うような知的障害のお子様がいる家庭の話等を例示して、様々な障害特性のある方たちが気兼ねなく余暇を過ごせるよ施設として、当然必要なものであると主張させていただきました。

しかし、有識者からは、そうは言っても、民間のバリアフリー化が進んでいることから、廃止も含めて検討してはどうかと意見が付されております。

続いて、公の施設のあり方に関する有識者会議です。

こちらは、施策評価有識者会議の意見を踏まえて、県として、次期指定管理期間の中で廃止も含めて検討していくとお話をさせていただいています。

しかし、いつまでに廃止するという話は福祉部からは一切しておりません。

指定管理は5年間運営を委託する制度です。

現在の指定管理期間が令和3年度から令和7年度までの5年間になりますので、通常であれば、次期指定管理期間は令和8年度から5年間となります。

福祉部としては、令和8年度から5年間は指定管理を継続したうえで、その期間中に継続・廃止の検討をしようと思っておりましたが、同会議の報告書が3月に完成し、知事に提出された中で調整がされた結果、伊豆潮風館の大規模修繕が令和10年に見込まれているということもあり、指定管理期間を5年とせずに廃止も含め検討すべきとの意見が出ました。

同意見を踏まえ、検討期間は2年間とすることが庁内で意思統一されましたので、次期指定管理期間は令和8年、9年の2年度間として募集をしているところです。

福祉部としては、来年度から2年間で伊豆潮風館をどうするか検討しなければいけない状況です。

続きましておおぞら号につきましては、武蔵野銀行から今日まで6台のバスを寄付していただき、50年以上にわたって県事業として、事業者を毎年入札、選定をし運航してきました。

ただ、バスの運転手の確保が非常に困難であり、今後の運行継続が見通せないという実情に加えて、社会全体のバリアフリー化が50年前よりは進んでおり、県内、近隣自治体でもリフト付きバス、同大型バスを実際に運行するバス事業者もあることから、県がバスを所有して運行することは終了するべきと県で判断、方針を決定いたしました。

つきましては、おおぞら号に関しましては今年度末をもって運行終了させていただきたいと思います。

このことにつきましては、県ホームページでも公表させていただいており、実際に利用された方につきましては通知をすでに郵送さしあげているところでございます。

今後は、リフト付きバスを保有する民間事業者情報等を周知する、合理的配慮に関する事業者向けの働きかけを実施する等して、旅行しやすい環境を整えるように努めてまいりたいと思います。

以上でございます。

【遅塚委員】

では、書面参加している委員の意見を御紹介ください。

【事務局】

書面参加委員の御意見について概要を報告いたします。

自閉症協会・亀岡委員からのご意見です。利用している障害者団体の意見を聞いたうえで、このような重要な決定をすべきであったと御意見いただいております。

今後は建設的な話し合いの場を望むとも御意見いただいております。

次に、川津委員からの御意見です。川津委員につきましては意見と質問がございます。

川津委員の御質問です。公の施設有識者会議、施策評価有識者会議、事業レビューの対象に2つの事業を選択した理由を教えてくださいとのことです。

川津委員の御意見です。他県のリフト付きバスの保有、運行情報を教えてください。運行終了した他県の情報も含めて教えていただきたいとのことです。

また、私たちのことを私たち抜きで決めないでという障害者権利条約に則り事業運営するようにとの御意見もいただいております。

次に、松本委員からの御意見です。

当事者の声を丁寧に聞きながら代替案を検討する貴重な機会となることを期待したいとの御意見です。

代替措置について、何点か御意見をいただいております。

例えば、伊豆潮風館以外で、バリアフリー対応宿泊施設を開拓、連携する等検討してはどうか、等の御意見をいただいております。

続きまして、精神障害者家族連合会の林委員からの御意見です。

障害者権利条約に掲げられているように、当事者の声を抜きにして、当事者に関する物事を決めないでほしい、そういった決定がなされてしまった福祉政策の未来に不安を感じる。おおぞら号、伊豆潮風館の代替案に関する予算提出をお願いしたいとのことです。

つづきまして障害難病団体協議会石橋委員からの御意見です。

1点目。予算不足による廃止ではなく、当事者が利用できる形での継続を望む。

2点目。伊豆潮風館については、アンケートを実施して利用の少ないサービス、エリアを縮小し、経費削減を図ってはどうか、とのことです。

続きまして埼玉県精神障害者社会福祉事業所運営協議会の神月委員からのご意見です。

おおぞら号も伊豆潮風館も障害者にとって大変貴重な事業です、とご意見いただいております。

特におおぞら号については、大型バスを利用したくても、精神障害を理由に利用を断られることが多いため、特に貴重だと意見をいただいております。また各団体からの意見をよく聞いていただきたいとも御意見いただいております。

最後に公募委員である関根委員からいただいたご意見です。

利用者側からの視点と行政側からの視点ということで2点御意見をいただいております。

1点目。利用者側からの視点として、障害者施策に伊豆潮風館もおおぞら号も貢献してきたと思うが、その貢献度、成果を十分に把握、踏まえたうえで検討すべきではないかとのことです。

また、代替案が必要だという御意見、廃止に伴う利用者理解を得られるような説明が必要であるという御意見、コストがどれくらいかかっているのか、廃止理由を公開すべきという御意見もいただいております。

2点目。行政側からの視点として、老朽化対策の切替投資の判断、利用者からの理解の求め方、予算が限定される中での事業の優先順位の設定の仕方について御意見いた

だいています。

最後に、本日書面でご意見いただき、御参加もされている下重委員に、ご自身の意見のご説明をお願いいたします。

【下重委員】

時間がかかるので代読してもらいます。

【万谷委員】

代読いたします。

伊豆潮風館廃止の代替案が不十分です。

伊豆潮風館は当協会会員、関係者も数多く利用している施設です。

しかし、令和6年度の施設評価有識者会議で、伊豆潮風館の廃止に向けた検討を進めるべき、という意見が出され、進めていくことになったと聞きました。

有識者会議では、伊豆潮風館のような施設を保有している自治体は全国でもごくわずかであり、同館は廃止して他の手法で障害者の社会参加を支援したほうがよいとの意見や、全国どこでも使える宿泊クーポンを検討するなど、伊豆潮風館の代替となる施策について意見が出ていました。

しかし有識者会議の中でも県福祉部が説明をしている通り、障害者が安心して泊まれるバリアフリー化された施設はまだ不足しています。

宿泊クーポン券が発行されても伊豆潮風館と同じように宿泊できる施設は限られています。

一方でバリアフリー施設、宿泊施設を増やしていくための具体的な方策については有識者会議の中でもほとんど示されていません。

伊豆潮風館は利用価値の高い施設です。私たち障害者団体にとって伊豆潮風館は他の施設より利用価値があると感じています。

第1に施設設備面が充実しています。

浴室リフト、車椅子用トイレが多数あり、特別室、和洋室、リフトつき送迎バスなど、一般的な民間ホテルにはない設備が整っています。敷地もゆったりとしていて落ち着いて滞在ができます。

第2に収容人数が多いです。

障害者団体の旅行、研修にて潮風館を利用しますが、100人近い人数で宿泊することもあります。

障害者がこの人数で利用できて設備が整った施設はありません。

第3に、低廉な料金で利用ができることです。

伊豆潮風館は、障害者割引に加えて、介助者、高齢者、低所得者などに対しても割引があります。障害者は所得の低い方も多く、このような金額で利用できることは大変ありがたいです。

第4に伊豆潮風館スタッフは、障害のある人への説明に慣れておられます。

ほどよい距離感で様々な要望にも柔軟に対応していただけます。

以上の理由から伊豆潮風館の今後について、利用者も含めた話し合いの場の設定をお願いします。

十分な代替案もないまま、伊豆潮風館を廃止することは大変な損失と言えます。

伊豆潮風館を今後どうしていくかについては、障害当事者や家族など実際に利用している人たちの意見を十分に踏まえ検討を進めていただきたいと思います。

以上です。

【遅塚委員】

ありがとうございました。

皆様から何か御意見ありますか。

【植村委員】

おおぞら号にかかっていた費用、こちらはどうなるのでしょうか。

おおぞら号が無くなり、社会参加されようとする方々に対し、県から何等かの助成がされると良いのですが。

また、伊豆潮風館についても同様です。

先ほどの下重委員の意見に賛成します。

機器や設備のこともあります。何よりも利用していた方々の思い出や、これからのわずかな楽しみ、交流の機会を奪うことのないよう望みます。

【菊池委員】

知的障害の子たちは、おおぞら号や伊豆潮風館以外、利用したことがないです。

親の会として毎年利用している方の意見をお聞きしまして、伊豆潮風館がなくなると子供たちをどこへも連れて行かれない状況が生じてしまう。

もう1点、おおぞら号と、それとは別に伊豆潮風館まで送迎してくださるバスがありますが、もし、おおぞら号・伊豆潮風館が無くなってしまい、民間のバスを利用すると、多額のお金がかかるから旅行しない、という方がすごい多くいるとの話を聞きました。伊豆潮風館が送迎バスを運行してくれると、最も利用しやすいとのこと。

伊豆潮風館は、家族そろって一緒に行けると大変楽しみにされている方々が多く、今回廃止されるかもしれない話を聞いた時に、今後はどうしようと悩んでいるとのこと意見もありました。

私たち知的障害の子を持つ親としては、伊豆潮風館は、集団生活を学び合う場でもあるということで、送迎バスを利用して親子一緒に利用できる場が1つ減ってしまうことは非常に残念なことと思っています。

私たちは、民間バスも利用したことがあります。

2年に1回、車椅子の方々も含め一緒に行かれるように民間のリフトバスを利用したことがあります。バス借上料が、とても高額になり、25万円ぐらいの金額をお支払いしています。

皆で揃って一緒に行けることをとても楽しみにしておりますので、出来たらおおぞら号を存続してもらいたい。同バスが廃止されると社会参加の場も少なくなってしまうだろうし、集団生活の場も少なくなってしまう。

何よりも大事な観点だと思うのは、楽しみにしている活動がなくなってしまうことが本当に残念なことですので、是非とも当事者もしくは利用者の方、利用してる方々が納得の行くようなご回答をお願いしたいと思います。

【遅塚委員】

ありがとうございます。

今のお話を聞いていただいて、事務局から何かコメントはありますか。

1点だけ確認したいのですが、伊豆潮風館もリフト付きバスを持っているのですか。

【事務局】

伊豆潮風館自体も2台リフトつきバスを持ってまして、埼玉県内の方であって、障害当事者の方を含む20名以上の団体であれば、伊豆潮風館のリフト付きバスをご利用いただけます。無料送迎をしております。

伊豆潮風館に関しては、同バスを利用いただければ、埼玉県内から団体が伊豆潮風館に行くことが可能になります。

【遅塚委員】

ありがとうございます。

伊豆潮風館がなくなった場合、宿泊料金の安い施設と民間バス借上料と、2つの側面から負担が増えてしまうということですね。

【万谷委員】

おおぞら号は廃止が決定になっている状況ですよ。

どうやっても決定が覆ることはありませんか。

おおぞら号バス本体を寄贈してくれた武蔵野銀行にはどういうお話がいつていますか。

【事務局】

武蔵野銀行にもおおぞら号廃止の話をお伝えしています。令和7年度末で廃止しますとお伝えしておりまして、武蔵野銀行内部でもお話を共有していただいています。

【万谷委員】

民間バスが高い料金でしか使えないため、何とかおおぞら号を運行できるように、廃止はせず、利用者負担として運転手の方に日当をお支払いする等して、運転手を募集して運行するという意見が団体で出ています。

そのような形式で運行できるか、考えていただけないでしょうか。

【事務局】

おおぞら号の運行につきましては県としても、廃止ということで方針決定をしております。

【遅塚委員】

県の方から代替案は提示されているのでしょうか。

【事務局】

代替案については、現時点で申し上げることが出来ません。

皆様には、今もこの会議で、または個別で御意見をいただいておりますので、御意見を踏まえて何ができるか検討してまいります。

【遅塚委員】

ありがとうございます。

当然代替案は予算を伴うため、予算が確定するまでは、不確定ということだと思いますが、この場でこういう代替案があるといいと御意見をいただければ、県として受けとめていただけるということだと思います。

万谷委員の御意見も1つの代替案ではありますが。
あと、おおぞら号の年間運行日数はどれくらいですか。

【事務局】

令和5年度の予算ベース日数は130日です。

令和6年度からは運転手不足ということで、業者から同日数の運航は無理との理由から入札業者が不在となる事態が生じました。

しかし、その後色々と試行錯誤調整した結果60日と短縮し運行しております。

【遅塚委員】

県としても運行日数60日で維持費を割ると割高になるような状況がありますか。

【事務局】

予算の話をしますと、AED等含め委託費総額は、令和7年度当初予算で600万円弱です。

ちなみに、運行日数130日の時は1100万円程度の委託費総額です。

【遅塚委員】

細かい話になりますが、委託料は600万円弱で、車両自体の定期整備、車検費用等は委託料とは別に用意しているのですか。

【事務局】

全て込めです。

さらに正確な数字を申し上げますと、運行日数60日の委託費総額は589万5千円です。運行日数60日となる前は1145万3千円です。以上がおおぞら号運行のために県が確保していた予算額、している予算額の全てです。

【遅塚委員】

端的に判断すると、おおぞら号廃止により、県予算としては600万円弱負担が軽くなるということですね。

【事務局】

おおぞら号運行に関わる費用はなくなります。今後、車両をどうするかによって予算が必要になってきます。

【遅塚委員】

車両を廃止するにもお金がかかるかもしれないということですね。

【事務局】

車両自体を廃棄すると決まったわけではありませんが、廃棄費用がかかります。

【遅塚委員】

とりあえず現時点では、車両が売れてプラスになるか、プラマイゼロになるか、売却費用がかかりすぎて逆にマイナスで予算がさらにかかるのかは分からない状況ということですね。

【事務局】

現在のおおぞら号は運行開始してから9年ほどになります。
これまで、大体平均で9年弱ぐらいで車両を変更してきました。

【万谷委員】

武蔵野銀行さんから寄付いただいたバスの関係で、ホームページで拝見したのですが、平成29年4月には武蔵野銀行グループの役員含む3000名の募金を実施して、バスの製作費に充ててくださったと書いてあって、そのようなバスを廃止するのはもったいないですね。

おそらく毎回、そのように製作いただいている車両だから、廃車にせず利用していただきたいという大きな希望があります。

先日、障害者交流センターでおおぞら号が走っていましたよね。

私たちも、団体交流室のバスが度々故障するので、おおぞら号事業が廃止になるのであれば、廃車にはせず障害者交流センターで使ってもらえないかと話していたところ、たまたまセンターでおおぞら号を見かけた人がいたので。

噂によると、おおぞら号の車体が大きすぎて障害者交流センターでは走れないらしい、と聞いたのですが、そのとおりですか。

【事務局】

申し訳ありませんが、その点についてはお話が出来ません。

【万谷委員】

出来れば廃車にせず再利用していただけると有難いと思います。

例えばバス会社を買っていただいて、障害者を優先的に使えるよう配慮をしていたけると良いなと思いました。

おおぞら号は使い勝手がいいのです。

【下重委員】

公の施設の在り方有識者会議のメンバーとして、障害当事者は入れるのでしょうか。

同会議委員が、果たして障害者のことを理解しているのかお聞きしたいです。

【万谷委員】

有識者の中に障害者施策に明るい関係の人はいないですね。

【遅塚委員】

そもそも有識者会議は、障害分野だけでなく、全分野を検討しているのでしょうか、どのような分野の方が分かりませんが。

【事務局】

有識者会議が2つあって、今御指摘があったのは、公の施設のあり方有識者会議の話になります。

これについては、建物維持、管理等の観点から経済学部、工学部等の方が検討するものです。

30年以上経年している建物は順番に本会議に諮られることになります。

障害者の施設だからということではなく、単純に県の保有している施設について諮るものです。

例えば、同時に諮られているのが県立図書館、県民活動総合センター等です。

そのため、有識者会議の趣旨は、障害者のことを分かっているか否かという視点ではありません。

もう1点、施策評価有識者会議の委員については、ホームページ上には委員名が出ていますが、そのうちの誰が伊豆潮風館を審議したかは非公開になっています。

こちらの会議も自治体マネジメント、経済政策といった分野の方々が中心となっております。

そのため、障害分野に特化した会議ではないということ、有識者会議自体も、福祉部門だけでなく、環境、青少年施策といった様々な分野において事業の継続性は如何に、といった視点で審議いただくので、どの分野に特化しているといった委員選定はされていないと聞いています。

しかも、この2つの有識者会議に諮られる事業は、福祉部の裁量はありません。

対象事業の選定方法という基準に合致した事業は須く順番に諮られます。

以上のことから、福祉に詳しい方が委員になるわけではありません。今回で言えば障害者施策の専門的部分は、福祉部が主張させていただきました。

【下重委員】

資料の読み方を誤っているかもしれませんが、伊豆潮風館を建て替えると3億円かかる、宿泊クーポン券予算も3億円かかるとあります。

どちらも3億円かかるのであれば、伊豆潮風館を建て直した方がいいと考えています。

【遅塚委員】

3億円は、建て替え費用ではなく、大規模修繕費用ですかね。

【事務局】

3億円は修繕費用です。令和10年度に2.8億円程度の修繕費用が生じます。

今、下重委員がおっしゃったクーポン事業3億円については、施策評価有識者会議議事録2枚目上部に記載があります。

その記載は福祉部の主張です。クーポン事業を実施しようとする、1人当たり1万円補助するとして、年間3億4000万円程コストがかかるため、指定管理料1億5000万円以上のコストをかけるよりも現施設を継続した方が良いと主張しました。

実は、この主張をするため、コストを多めに見積もりました。同等の事業を行っている東京都でもこんなに予算を取っておりません。そのため、福祉部が主張した3億4000万円という数字は実情と合ってはいません。

年間運営費で現在1億5000万円かかっていますが、人件費・光熱水費も価格が高騰

しているので、来年度以降はもっと予算が必要になる可能性があること、古い施設なので大規模修繕が何年かに1度ずつ3億円程度かかるということ等を勘案すると、維持、事業継続していくことは難しいだろうと意見が出ました。

そういったことを踏まえ、廃止を含めて検討すべきと意見をいただいているところです。

【遅塚委員】

どちらの会議も理念として、伊豆潮風館はもう必要ない、という意見が基調であるように読めますが、障害者福祉推進課として受け止めた実感はどのようなものでしょうか。

【事務局】

費用面というよりは、どちらかというと、社会全体として、受け入れ可能なところが増えてきているとの意見がありましたが、伊豆潮風館が事業開始した38年前と比較して論じられておりまして、そうなると、当然その頃に比べればという言い方で、当時と比較すると障害理解が深まっている、受入可能な施設が増えているという主張がされました。

合理的配慮の提供が事業者にも義務化されたことを踏まえて、県としては法律上誰もがどこでも選んで宿泊余暇活動ができる状況を作るべきという意見はいただいたところです。

【遅塚委員】

有識者の発言も分かりますが、全員がどこでも選んで宿泊余暇活動ができるようになってから伊豆潮風館を事業廃止するのであれば分かりますが、社会の風潮として誰でもどこでも使えるようになるはずだから、事業廃止となると困る人が出る。

【田島委員】

私たち視覚障害者は、ガイドヘルパーと一緒にです。

バス、宿泊施設にしても、私達は2人分払わないといけません。

お金のことではありませんが、伊豆潮風館に関しては安価に安心して泊まれるので有難い。もし廃止するのであれば代替策を検討していただきたい。また、バスに関しても、民間バスは本当に高額です。

30キロ程度の移動距離でも7万円ぐらいかかります。

視覚障害者の場合、負担増加額が2人分になります。

障害当事者は、収入も低いことが多いですから、数万円かかる旅行を企画しても、人が来ません。

今までは格安で泊まれて、迎えにまで来てくれるということで伊豆潮風館を利用しておりました。

宿泊クーポンのお話がありましたが、ただ白杖を利用している視覚障害者だったら問題ありません。

盲導犬ユーザーにとっては、いまだ盲導犬がいると入れないところが多いです。

そのため、クーポンは盲導犬ユーザーにとってはうれしくありません。

視覚障害者として、おおぞら号が無くなるのであれば、同様のバスを借りた際、補助いただける取組を望みます。

【万谷委員】

ちなみに車椅子を利用すると、民間バス借り上げ料は1.5倍になるそうです。

【遅塚委員】

25万円程度になるという情報がある。

【万谷委員】

安いほうですよ。先日、民間バスを借り上げようとしたら、30万円～40万円と言われました。

【遅塚委員】

30人40人バスを利用すれば一応、1人1万円ぐらいにはなる。

【万谷委員】

高額すぎて民間バスは利用できません。

【遅塚委員】

県がおおぞら号を廃止する理由の1つとして運転手不足で受託できないというお話がありました。

バス自体も9年程度経過して経年劣化してきていると。

【事務局】

委託が出来ない、受託してくれないのもありますが、県としては、今後民間バスを利用して社会参加していただきたいと思っています。

お金の面については我々も見積もりを取ってはおります。

また、バス会社に御相談をしてきましたが、なかなか委託業者が見つからないという状況もありました。

逆に個別発注だったら普通に対応できます、という話もあったので、そういった会社には団体の皆様等から個別に発注をしていただければと思っています。

【遅塚委員】

おおぞら号を廃止する理由について、当初は、受託会社がなくなり、バス自体9年経過して劣化しているからというものだと思いましたが、改めて説明を聞くと県が事業実施する意義自体が低下しているという判断ということですね。

民間が実施可能、提供可能なものを公が機会を奪ってはいけないということですね。

その点はおおぞら号と伊豆潮風館と違う点ですね。

潮風館の意義自体はまだまだあると感じられる説明でしたが、おおぞら号は県が直接実施するものではないという御判断だったということですね。

リフト付きバスは民間でも借りられるようになっている、という認識で良かったでしょうか。

もしそうであればもう理念の話ではなく、障害者には所得の少ない方が多くおられる中で、このままでは社会参加を阻害してしまうという論点になると思いますが、そ

のような整理でよいでしょうか。

【事務局】

よいです。

【遅塚委員】

それでは負担増をどうするか、ということになりますね。

【下重委員】

作業所では工賃がとても安くて、1時間200円くらいなのですが、私はあまり作業所に行っていないため、1か月3,000円くらいしか手取りがありません。

そういった点にも配慮をしていただければと思います。

【遅塚委員】

ありがとうございます。

自分が稼いだものだから自由に使えます、でも月3,000円ですと言われると、相当制限がありますよね。

伊豆潮風館についてはある程度独立した有識者会議において検討されて、県としてあり方を検討してはどうかという意見が出されたことが契機ですが、おおぞら号の場合は県の判断で、県としての事業は不要との判断になったのであれば、やはり利用者である障害当事者の意見を聞かずに決めたのはいかがなものかという意見が出ると思います。

伊豆潮風館と違い、おおぞら号の場合は、なぜ当事者に一言言ってくれなかったのか、というのは残念ではありますね。

【万谷委員】

今回はおおぞら号ですが、障害者交流センターも年数が経過していますよね。

次は交流センターが廃止検討されるのではないかと恐怖感もあり、障害者施策について、障害当事者抜きで決められてしまっただけでは困ります。

建て直す、修理する等の話の場合でも前もって、障害者団体に話をしていただきたいとは思っています。

交流センターも廃止検討するべきと伊豆潮風館等と同様の事態になることを心配している人が実際にいますので、話は団体等に入れていただきたいと思っています。そうでないと私達は県を信用できないという気持ちになっています。

【遅塚委員】

県はそれなりに色々な障害者団体の意見を聞いて、信頼関係を作りながら事業を進めてきた実績があるわけですからね。

【万谷委員】

今回裏切られたという気持ちがあります。

このままだとまた裏切られるのではないかと心配しています。

【遅塚委員】

公の施設の在り方有識者会議に諮られた、県民活動総合センター等はホームページを見れば、どのような意見が出されたか我々も分かるということですよね。

【事務局】

有識者会議の報告書などは公表されています。

【万谷委員】

県民活動総合センターはとても立派な建物ですよ。

県立図書館等も古いから有識者会議に諮られた、ということですか。

周りで県立図書館に代替するものがある、という理由ですか。

【事務局】

県立図書館については詳しいことは申し上げられず申し訳ありません。

ただ、市立でも図書館が数多くあるという状況の中で、役割分担が必要という意見があったようです。

【遅塚委員】

県立図書館に関連して、障害分野も点字図書館があるから関係してくるかもしれないですよ。

点字図書館から県が手を引く可能性がある。

【万谷委員】

県内で大きな事故も起きていてお金が必要なのは分かりますが、障害者を無視しないでいただきたいです。

【田島委員】

私も久喜図書館はよく利用しておりますけど、気をつけていないと、様々なことが知らない間に決まっていっています。

【下重委員】

民間の宿泊施設で障害者が利用できる場所は具体的にありますか。

【事務局】

具体的にお示しするのは難しいです。

例えば、バリアフリールームのある宿泊施設はさいたま市内でもあります。

また、宿泊施設、観光施設、飲食店等について、こころのバリアフリー認定制度という仕組みがあり、一定条件を満たすと認証を受けられるということを官公庁がやっております。県内宿泊施設では17施設が同認証を受けています。

例えば、伊豆潮風館がある静岡県の場合は、156施設が認証を受けています。

全国では2600以上の宿泊施設等が登録をされているようです。

ただ、比較対象である伊豆潮風館と同等なのかと問われますと、同館は身体障害者福祉法上の障害者施設なので、特化したサービス提供をしております。民間のホテル、旅館が同じ条件かと言われると、違うと思っております。

リフトを持っている近隣の旅館は調べました。

いくつかは伊豆潮風館と同様の設備を持った宿泊施設がありました。バリアフリー認定施設もあります。数は少ないですが、思ったよりはリフトがある施設はありました。

【万谷委員】

伊豆潮風館の何がいいかというと、海が見える点です。
普段海のない県にいて、同館に宿泊してリフレッシュして帰る人が沢山います。

【事務局】

全室オーシャンビューですからね。

【遅塚委員】

誰か買い取ってくれないでしょうかね。
丸ごと上げるから、と言えば引き受けてくれる会社とかないのかなと思います。

【事務局】

今後については、これから検討していくことになります。

仮に廃止した場合の代替案も検討していきますので、結論は申し上げられませんが、栃木県で平成30年に廃止した同様の施設「なかが和苑」は、重度障害者及び高齢者を受け入れる宿泊機能を維持したまま、別の事業もしていいという条件で、民間に売却しています。

現在、社会福祉法人が運営をしていて、高齢者のデイサービスと障害者のB型事業所を併設して、かつ宿泊機能をそのまま残しています。

車いすの方の場合、どちらかと言うと伊豆潮風館よりも、なかが和苑の方が利用しやすいようです。

伊豆潮風館は埼玉県内にないので、仮に売却するにしても、どういう条件が付けられるかについては、これから検証いたしますが、売却も含めて検討することになっています。

元々、伊豆潮風館のような施設は、過去も含めて全国でも10施設程度しかなく、そのうち現存しているのは伊豆潮風館含め3施設だけで、他県に施設を所有しているのは埼玉県だけです。そういった意味でも、有用であった部分と、有事の際にすぐ駆けつけられない、維持管理に余計な費用がかかる、費用面だけでない諸課題等、問題があったことは事実です。

【万谷委員】

なかが和苑の宿泊費用も値上がりしました。
障害者は中々利用できなくなりつつあります。

【事務局】

その分、逆にサービスよくなったというご意見も聞いたりはしています。
金額が上がった分、使えなくなったという話もあります。

【万谷委員】

なかが和苑は素晴らしい温泉ですが、障害者が埼玉から行くとなると交通費、高速

代がプラスされます。その分、やはり行きにくくなったなと思います。

【遅塚委員】

伊豆潮風館もなかが和苑と同様の対応となると、宿泊費が高くなる可能性は十分ありますね。

そうなった場合は、県は有識者の言いなりにならず、障害者のある程度は優遇していただきたいと思います。

【事務局】

今後、ご意見を伺い、どうしていくか決めていくことになると思います。

【遅塚委員】

県による委託という形式が取れなくなった場合であっても、代わりにどういった方法が良いのか、については課題なので広く皆様からアイディア、意見を募るということですね。

【万谷委員】

意見、アイディアを募るのであれば、各団体に呼びかける等しっかり周知していただきたいです。

【事務局】

伊豆潮風館に関しては、今後ご意見を伺う場を設けさせていただきたいと思っています。また、情報の発信という点では、今お配りしている報告書は企画財政部において3月にHP掲載されたものです。3月時点では、福祉部としては情報を外部に出せませんでした。

最終的には県の判断になりますが、ご意見をいただき、伊豆潮風館自体をどうしていくのか決めていくことになります。

【遅塚委員】

伊豆潮風館は次期指定管理期間を2年間で公募しているとの説明がありました。

ということは、令和10年度はどうなっているか分からない。

実際には様々な準備、予算も必要になってくることを考えると、来年度が検討の本番ですか。

【事務局】

令和8年度には方向性を決めないといけません。

【万谷委員】

県予算はいつ頃決まるのですか。

【事務局】

最終的には1月ぐらいに決まります。

令和8年度中に方向性を決めて、令和9年度中に令和10年度予算をどうするか決めないといけません。

新規事業であれば5、6月から動き出すので、令和9年度の同月頃には、ある程度形にして打ち出さないとはいけません。事業継続するのであれば継続費用ですし、代替事業であれば、新規事業予算素案が必要です。

ご意見をいただく形式としては、集まっていただくのが難しければ、書面で御意見照会したいと思います。

【万谷委員】

発表できる段階になったら早めにご連絡をお願いします。

【遅塚委員】

役所だから正式に決まるまで難しいとは思いますが、早めに意見聴取をお願いします。

今の事務局からの御説明でスケジュール感が明確になりました。

令和8年度中にはある程度、皆様からの本音の意見を提供しないと、県の施策に反映されるのは難しい状況です。

【植村委員】

伊豆潮風館やおおぞら号を利用されている方の声を聞くことは大変重要です。

今後の施策推進協議会、ワーキングチームの中で、障害のある方のささやかな楽しみ、希望に配慮いただき、同観点を念頭に検討継続していただければと思います。

【遅塚委員】

伊豆潮風館に関しては、それぞれの団体の中でも当事者の声を集約していただいて、なるべく早く県に情報提供しないといけませんね。

事務局の立場としては、他部署から福祉を守ってくれる立場でもあるので、こちらからも十分な利用者の声をお届けしないといけません。

おおぞら号については、来年度ないことが確定しております。

代替措置については現時点では発表できないことは分かりますが、来年度の新規事業部分の予算については、今からでは遅いかもしれませんが、このような代替措置が必要といった意見であったり、このような措置をもっと進めてくださいという意見があれば、今日この場でも発言いただいた方がいいと思います。

【下重委員】

障害者が利用できるバスの台数について、複数台の車いすが乗れるバスがあるのでしょうか。料金の負担増も問題ですよ。

【遅塚委員】

おおぞら号を使えると無料ですよ。

民間バスだと25万円～30、40万円程度借上料がかかるとの話がありました。

当事者にとって負担感がゼロから30、40万円程度まで増えるのは耐え切れないという話になると、団体対象にバス借上料の助成制度を作りたい、というイメージでしょうか。

【下重委員】

障害者の弱い立場に立って検討していただきたいと思います。

【遅塚委員】

弱いかどうかは議論があると思いますが、経済的弱者であることは間違いないと思います。

機会平等ではなく、結果平等がないと厳しいですね。

【植村委員】

バスを借り上げた団体への助成がされるといいと思います。

そうでないと障害者は旅行に行くことができなくなってしまいます。

各団体に、代替措置案を聞いてみてもいいと思います。

お金がかからないよう今までと同程度の負担額になる金額を希望します。

【遅塚委員】

無料から 30, 40 万円程度に負担が増えてしまうのは、余りに変化が厳しい。

ただ、もしも助成してもらえるにしても、今までと同様に負担が 0 円になるように助成というのは正直厳しいとは思いますが。

自己負担は増えるかもしれませんが、負担ゼロから 30, 40 万円というのは、厳しすぎますので、例えば半額、3 分の 2、3 分の 1 程度の助成が欲しいという要望は当然あると思います。

【万谷委員】

助成もいただいて、実際に出かける利用者も幾ばくか負担する。

今まで通り無料では当然行かれないと思うので、1 人数千円×〇〇人等と足して費用を賄えればマシかと思います。

30 万円、40 万円の借上料で、30 人乗って出かけた場合、宿泊費も入れて 1 人当たり何円出せばいいのか、となってしまいますので、その点も考慮していただければと思います。

【遅塚委員】

本人だけでなく付き添いの方々が一緒である場合、2 倍、3 倍と料金がかかってくるので。

【万谷委員】

年に 1 度あるかないかの楽しみが無くなってしまうのは辛いので。

【遅塚委員】

来年度の事業計画を立てる中で、来年度から急に大幅にお金がかかるようになってしまうのであれば、もう旅行する事業は止めようとなってしまいますからね。

出来ればそういった点も考えて欲しいと思います。

【万谷委員】

今年、おおぞら号の抽選に外れて旅行に行けなくなったという団体も実際にありますから、おおぞら号が廃止となると、そういう団体はどうしても増えてくると思いま

す。

【遅塚委員】

認識としてはお金の問題が大きいということによろしいでしょうか。金銭面での代替措置を考えていただきたいという意見に集約されますかね。

例えば、運転手さんが親切だから運行自体やめないで欲しいという話はないということでしょうか。

【万谷委員】

運転手さんはその時々で異なります。

良い運転手、乱暴な運転手がいますよね。

【遅塚委員】

それはどこの会社がやっても同じですね。

おおぞら号についてはお金の問題である、バス借上料の助成があれば障害者の社会参加、外出の権利が少しでも保障されるので、是非お願いしたいということですね。

伊豆潮風館については、無くなると宿泊できなくなる人がどうしても出てくるし、宿泊料金の問題もある、ということですね。

ただ、今後のことについては、伊豆潮風館自体が廃止になるのか、廃止になった場合でも運営主体が変わって運営が続くのか、全くの廃止となるのか。

それぞれの場合でも、お金のかかる宿泊料の問題、障害者の方が出かけたときにかけられる社会参加の問題、どこでも泊まれるように啓発するといったこと等、少なくとも令和8年度中に、皆さんの意見を集約してしっかり県に伝えないといけないことが判明した点は、本日の1つの成果と思います。

【事務局】

伊豆潮風館に関して補足です。

これから決めていく予定ですが、皆様には、いつまでに御意見をください、動いてください等の情報はお知らせ出来ると思います。

障害者支援計画の掲載事業でもありますので、施策推進協議会の場でも、引き続き議題としたいと考えております。

そのためにも今回この場で、皆様の御意見をいただいたことは大変貴重なものと考えております。

本日のワーキングについては、意見を取りまとめさせていただいて、10月27日第2回障害者施策推進協議会に報告いただき、同協議会の提言として県に対する意見という形で返していただくことになると思います。

【遅塚委員】

本ワーキング座長として、一言意見を申し上げます。

伊豆潮風館については、現行障害者支援計画の次の計画の出来事なので、次期計画を検討する中で議論があると考え、ある意味仕方ないと思いますが、おおぞら号については、計画に掲載されている事業が、計画年度中に廃止になる話なのであれば、障害者施策推進協議会、障害者団体等に広く意見を聞きながら進めて欲しかったです。

全て決まってしまって変更余地がない段階で報告のみいただいたことは遺憾だと感じております。

障害者施策推進協議会に報告する際は、この点を書き添えておいていただきたいと思います。よろしくお願いします。

皆様の意見も集約されたと思いますので進行を事務局にお返ししたいと思います。

【事務局】

いただきました意見は、事務局でとりまとめし、改めて皆様に御確認いただきます。

書面参加いただいた委員から御質問いただいている点につきましては、回答を作りまして、改めて委員に報告します。

本日はありがとうございました。